

2026 JUA/AUA Resident Program 参加報告

小笠原峻アンディ（東京科学大）

この度、2026年5月15日から18日にワシントンDCにて開催されたAUA annual meeting 2026にJUA/AUA Resident Programの一員として参加させていただきました。JUAとAUAの交流事業である本プログラムに選考いただき、滞在費用はAUAから援助いただく形で、初めての国際学会への参加が叶いました。

学会期間中は、Residents Bowlというチーム対抗のクイズ大会や、Presidents Receptionというパーティーに招待いただいた他、私自身の演題のポスター発表の機会もあり、緊張の連続でしたが、大変充実した滞在となりました。

メインイベントであるResidents Bowlでは、全米各地の精鋭レジデントが地区毎にチームに分かれ、そこに各国のレジデントが助っ人として加わり、お揃いのTシャツを着てチーム対抗でクイズ勝負を行いました。クイズの内容は基礎医学から臨床推論、ワシントンDCという開催地にちなんで歴代米国大統領について問う問題まで非常に幅広く、各チームがレジデントとは思えない博識ぶりを披露し、熱戦を繰り広げました。私はSouth Centralチームにイスラエルやメキシコのレジデントと一緒に参加させていただき、終わってみれば、どれほど貢献できたかはわかりませんが、見事準優勝を飾ることがで

きました。

Presidents Receptionは、各国の泌尿器科学会関係者が招待される大規模なパーティーで、一緒に参加するものだと思っていたResidents Bowlに出場していた他国のレジデントはほとんど見当たらず、思わず気後れしてしまう空間でしたが、日本から参加されていた先生方にもお声掛けいただき、楽しく過ごすことができました。

その他の空いた時間では、様々なsessionに参加したり、規格外のスケールの企業ブースを見て回ったりして過ごしました。行く場所に迷う時はPlenary（メイン会場）にいたことが多かったのですが、特にBCG unresponsiveのNMIBCに対する治療選択肢の幅広さを目の当たりにして衝撃を受けました。

初めての国際学会に参加し、世界の泌尿器科の最新潮流を肌で感じるとともに、知識面でもコミュニケーション面でもまだまだ未熟であることを痛感させられました。今回の経験を糧に、今後とも臨床・学術面ともに一層の精進を重ねたいと思います。

最後に、このような貴重な機会を与え、サポートしてくださったJUA・AUAの関係者の方々、快く送り出してくださった東京科学大学腎泌尿器外科学教室の先生方に深く感謝申し上げます。



写真1 決勝戦前のSouth Centralチームの仲間たち



写真2 Presidents Receptionにて国際委員会の先生方と